



中国ブロック



発行人：田妻 進
〒734-8551
広島県広島市南区霞 1-2-3
広島大学病院 総合内科・総合診療科
Tel&Fax：081-82-257-5461

ニュースレター No.16 (2017.12)

【m-HANDS-FDF 2017 第1回の報告書】

中国ブロックでの指導医講養成の報告

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック・松坂内科医院 松坂英樹
岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

【m-HANDS-FDF】(modified - Home and Away Nine Day S - Faculty Development Fellowship)

JPCA-MLなどで募集して中国地方の指導医9名が全5回のコースに参加されています。9名はそれぞれ3人ずつのチームを作り、模擬ティーチングなど協同して行ってまいります。以下に全体の概要と実際参加された指導医からの報告の一部を掲載しますのでご一読ください。2018年度も同じような枠組みを予定しています、ご興味のある方はご相談下さい。

〈目的〉 中国ブロックの指導医養成

〈対象〉 ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を終了した医師
・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

Core Competence：Adult Educator(成人学習支援者)

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる
教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる
学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる

☆第1回 2017年8月26日(土)～27日(日)

会場：島根大学 出雲キャンパス みらい棟

講師：井上和興、藤原和成、松下明、松坂英樹

(参加者からの報告)

1日目

・オリエンテーション/アイスブレイク/FD概論+教育理論

アイスブレイク：LEGOを用いて各々の学習についてのイメージを作った。様々な形の作品が出来上がり、それぞれの個性が現れている。学習という広い概念に対して、各人が異なったイメージを持っており、それぞれの学習スタイルも事前調査でわかったごとく異なっている。学習者の指導においては、自らの学習スタイルと学習者のスタイルを理解しておくことは、互いの考えや行動様式の理解に役立つ、あるいは不要な対立を回避できる可能性がある。FDは極めて組織の目的志向であり、前提として、個々が組織の目的に100パーセント同意しているのか？という問題があるが、社会人として、大人として、FDとは組織の目的遂行のための方略であると理解しよう。その方が熱くなり過ぎることを避けることができるだろう。

教育理論総論：成人学習理論の5つの特徴を学んだ。成人でない者の学習の特徴を考えた。例えば子供の学習を考えると(みなさん経験済みでしょう)、違いは何処？成人というのは社会的な存在であり、その置かれている社会的な状況が学習にも大きな影響を与えるということでしょうか。FDの定義と成人学習理論で矛盾することがあるか？組織の中で働くことは常にこの矛盾にさらされていると思う次第です。

・フィードバック：効果的学習のFAIR：Feedback, Activity, Individualisation, Relevanceが大切。目標達成に大切なのは具体性。さらにFeedbackに関して重要なのは、I messageとYou message, Positive feedbackとNegative Feedbackの使い分け、言語的/非言語的Feedback、5micro skills。Sandwich法も重要(Positive feedback/Negative/Positive→尋ねる、伝える、尋ねる)。Feedbackには場所、タイミング、感情への配慮が大切。とにかく批判しない、話した内容

に関して責任追及しないという設定が大切。

- ・**外来教育 5MS**：フィードバックの実践として5micro skillを学んだ。学習者中心の学びを実践するために初めに考えを述べてもらうことで一方的な授業にならないような心がけが必要ということ意識する必要があると分かった。
- ・**ファシリテーション**：アウトカムモデル作成のために教育者が必要であるということ。そのためにカリキュラムの作成が必要で、評価方法を検討し、学習者を学ばせる方策を教育者が作成する必要がある。ファシリテーションという言葉すら理解できなかったため、関連図書を読み、その必要性、教育者が求められる内容が少しは理解できたのではないかと思う。

変わらないところ：元々無理強いしない、道を作らず創らせることをモットーとしていたが、ある程度学習者に対するファシリテーションが必要なことが分かったので、大幅に考えも変わった。変わらないところをあえて挙げるなら、自分の存在は空気のような居るのか居ないのか分からないような存在でファシリテーションができればと思う。

- ・**私の主張 (プレゼンテーション)**：フェロー9名が、各自、自分が主張したいことについて3分間のプレゼンテーションを行った。フェローそれぞれが、個性あふれる主張を繰り広げた。内容は多岐にわたり、バレエや阿波踊りのスズメからジャグリングの実演もあり、楽しく行えた。

2日目

- ・**チームビルディング**：本セッションではチームビルディングにおいてチーム継続が困難となる5つの要因、“信頼の欠如”、“衝突への恐怖”、“責任感の不足”、“説明責任の回避”、“結果への無関心”について学び、各々がこれまでのチーム形成において失敗した経験を共有、最後に5つの要因の中で自分が陥りやすい傾向と、それに対する対策を誓約書の形で記入し、互いに発表を行った。

- ・**カリキュラム開発**：アウトカム基盤型教育の理解を深めるために、Kempモデルに基づいて自院所の既存カリキュラムの見直し改善を行った。目標・方略・評価に一貫性があること、個別目標は具体的で測定可能であること、評価基準は妥当性・信頼性が確保できるよう設定すること、カリキュラム自体も評価し常に改善を加えることなどがポイントとして強調されていた。今後は3回に渡ってカリキュラム開発をチームで実践して深めていくこととなる。

- ・**シネメデュケーション**：2つのグループに分かれて、映画のワンシーンを題材にシネメデュケーションを体験した。シネメデュケーションは、各自が映像を通じて得た視点や感情が学びのスタートとなっていることから成人教育との相性がよく、また知識が疑似体験した経験・感情と共に記憶されるため定着しやすくなるのではないかと感じた。また、ストーリーから離れたところでも、短い場面であっても感情移入して観ている登場人物や注目していた点がそれぞれ異なることを体験し、同じものを見ているつもりでも各自の立場・価値観・感情などによって見え方は大きく異なっているということを経験することができる教育手法だと感じた。

(今後の予定)

- 第2回 in 福山 9月30日(土) - 10月1日(日)
- 第3回 in 山口 11月25日(土) - 26日(日)
- 第4回 in 岡山 1月20日(土) - 21日(日)
- 第5回 in 岡山 3月4日(日) ポートフォリオ発表会

近場の開催であれば見学も相談に乗りますので、ご連絡ください。

質問等ありましたら、hdk.matsuzaka(at)gmail.com までお問合せください。



【山口県支部活動報告】

<<日本プライマリ・ケア連合学会 山口県支部会 T&A マイナーエマージェンシー>>

<日時>平成 29 年 9 月 10 日 (日)

[プログラム]

眼科講義・ロールプレイ：『眼表面異物』

耳鼻科講義・ロールプレイ：『鼻出血』『鼻異物』『外耳道異物』『咽頭異物』

ランチョンセミナー：『脊椎圧迫骨折』

皮膚科講義・ロールプレイ：『熱傷』『動物咬傷』

整形外科講義・ロールプレイ：『足をひねった』『手をついた』

夏の暑さも過ぎ去り秋の気配がする 9 月 10 日、広島大学病院 脳神経内科学の松原知康医師を招き、「T&A マイナーエマージェンシー」を開催しました。インストラクターは昨年と同企画で受講生であった県内の医師が中心となり、受講生は県内医師が最多、遠くは三重県からの参加もありました。各セッションでは、講義で学んだ後に実際にロールプレイを行いました。終始笑いが絶えず和やかな雰囲気で進行了。また、通常の T&A マイナーエマージェンシーに加え、今回『脊椎圧迫骨折 (ランチョンセミナー)』『シーネ特講 (任意参加)』を愛媛県立中央病院整形外科の大野尚徳医師にご指導いただきました。朝早くから夕方までのスケジュールでしたが、実際に手を動かしてできるようになったことで、受講生の満足度も非常に高いものとなりました。今回、松原医師・大野医師から得た学びを、「無理のない範囲で自分にできることをやる」というスタンスで、今後の診療に生かしていきたいと思ひます。

山口県では今後も「小児 T&A」「ウィメンズヘルス」のセミナーを控え、総合診療医の教育の場が徐々に形づくられています。私たち専攻医も、学びながら次は教える立場を意識し、成長していきたいと思ひます。

山口大学総合診療プログラム 専攻医 1 年目 下川純希



<<小児 T&A (山口大学コース) の報告>>

平成 29 年 10 月 8 日に山口大学医学部附属病院を会場に小児 T&A コースが開催されました。県内外から多数のインストラクターの先生方にお集まりいただきました。発熱、腹痛、けいれん、喘鳴などよくある症候についてロールプレイと講義を通して一日かけて学びました。

普段小児を毎日みているわけではない参加者としては、まず小児の見方から学べたことが大変ありがたかったです。トリアージのブースで Appearance、Breathing、Circulation について小児ならではの評価を学ぶことができました。遊んでいるのか、元気があるか、視線が合うか、笑顔があるか、などをコース全体を通じて何度も確認することでトリアージの型を身に付けることができました。

症候別のブースでは見逃してはいけない病態、よくある病態を鑑別しながら適切に小児科へ相談できるようにロールプレイを通して学びました。これまで実際に遭遇したことがない小児疾患もありましたが、実際に診療をされている先生方から各疾患のプレゼンテーションのちがいを教えていただきました。ブースに配置された地元の小児科の先生方と具体的なケースについてディスカッションでき、今後の日常診療に大変役立つものでした。顔が見えたことで相談もしやすくなったと感じています。濃密な一日を過ごし、明日から小児が診たくなるコースでした。来年度以降も開催予定があり、楽しみです。(松本翔子)

<コースの概要：スケジュール>

9:00 - 9:40 導入・トリアージレクチャー

9:40 - 10:50 (70 分) トリアージ (自己紹介+ロールプレイ 5 例)

11:00 - 11:55 (55 分) 発熱 (講義+ロールプレイ 2 例)

12:05 - 13:00 (55 分) 喘鳴 (講義+ロールプレイ 2 例)

13:50 - 14:45 (55 分) 有熱性けいれん (講義+ロールプレイ 2 例)

14:55 - 15:50 (55 分) 腹痛 (講義+ロールプレイ 2 例)

16:00 - 16:55 (55 分) 嘔吐 (講義+ロールプレイ 2 例)

16:55 - 17:20 (25分) アンケート・まとめ・記念撮影

【広島県支部活動報告】

<日本プライマリ・ケア連合学会広島県支部設立総会>

日 時：2017年10月28日 13時30分～14時

場 所：TKP ガーデンシティ広島駅前大橋 6階ホール6C

出席者：出席者：35人、欠席委任状あり：105人（広島県支部会員数 227人）

議 事： 1. 定款の決定 2. 支部長、副支部長、世話人、監査の選出

田妻進（広島大学病院 総合内科・総合診療科）が発起人となり、上記のような日程で県支部設立総会が開催された。設立総会の議長は発起人田妻進が推薦され、議事が行われた。まず、広島県支部の定款については、発起人より提案（広島県支部定款案）について検討された。第4条（2）で「専門医研修プログラムの支援と連携」となっているが、医師だけでなくコメディカルも含めて「専門医等研修プログラムの支援と連携」に修正を行い、定款を賛成多数で決定した。次に、支部長、副支部長、世話人の選出については、会員から田妻進を支部長に推薦する旨があり、賛成多数で支部長を決定した。副支部長、世話人、監査については、支部長に一任することが、賛成多数で決定された。（文責：溝岡雅文）

<第3回総合診療セミナー>

今年度も広島県内の総合病院から症例発表を募集し、下記のプログラムで第3回の総合診療セミナーが実施された。初期・後期研修医13名、薬剤師3名を含めて59名（PC連合学会認定医・専門医26名、薬剤師3名を含む）が、クイズ形式の症例検討9題とレクチャーが行われ、活発な議論が交わされた。

日 時：平成29年10月28日（土） 14:15～17:20

場 所：TKP ガーデンシティ広島駅前大橋 6階 ホール6C

<症例検討>

第一部 司会：生田卓也先生 原田和歌子先生

- 1) 県立広島病院 岡本健志先生 「山ガール」（日本紅斑熱）
- 2) 福山市民病院 太田茂先生 「頭痛の発展型」（神経梅毒）
- 3) 安佐市民病院 友田真司先生 「4ヶ月児の咳嗽」（マイコプラズマ気管支炎）

第二部 司会：市場稔久先生 岸川暢介先生

- 4) 広島市民病院 脇本旭先生 「呼吸苦+霧視+認知機能低下」（AIDS）
- 5) 吉島病院 長澤佳郎先生 「周期的に下痢と下腹部痛を繰り返した女性の一例」（骨盤うっ滞症候群）
- 6) 広島大学病院 大谷裕一郎先生 「急性腹症」（鎌状赤血球症 急性胸部症候群）

第三部 司会：鎌田耕治先生 中村浩士先生

- 7) JA 広島総合病院 小西宏奈先生 「糖尿病加療中、意識障害を発症し遷延した一例」（浸透圧性脱髄症候群）
- 8) 庄原赤十字病院 槇坪良時先生 「意識障害を伴ったショックの一例」（化膿性関節炎・敗血症性ショック）
- 9) 国立病院機構呉医療センター 角悠司先生 「浴槽内で発見され搬送された一例」（熱中症）

<レクチャー> 司会：田妻進先生

講師：広島市民病院神経内科 黒川勝己先生 『総合診療医に必要な神経診療スキル』